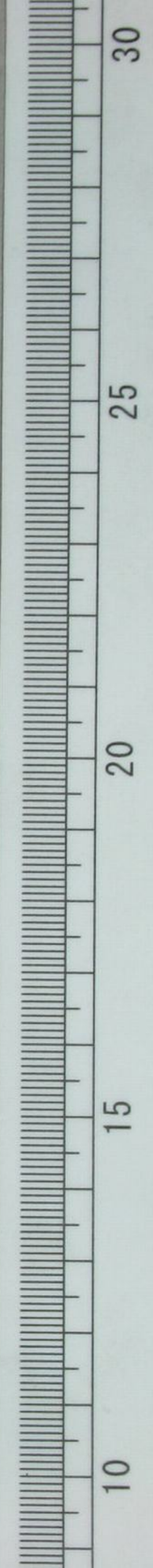




西野古海録
鹿島英雄銘々傳二号

正價
三十四文



A437

鹿見島英雄銘々傳二号

桐野利秋

旧名中村半次郎と称す或曰大坂の
与力大塩平八郎の三男なりと
後故有て今の名に改む

人となり豪邁はて侍砲

術は長き維新の
初軍功を

立て陸軍少将なりめと

より西郷と説の合さるる

ゆゑ故に遂に之

にんじ其名と汚せり

名々傳二



010190507861

48-79

鹿兒島の
女軍勇猛
激戦之圖



金一

永山九成

性武と好と劍法の
 奥秘と究むといふも
 砲術と好まざるを以て
 手小觸らるるとは明治
 初年越後長岡にて
 大功と申すに賞典と
 給る事少封建の
 残夢覚すして今回
 西々の余と受て熊
 水は出張し長持の
 中に潜伏して大は



官兵を
 惱ませし
 とありとを

村田三助

豪俊の傳えあれと生得
 短慮はてれ丈夫の所詔
 暴虎馮河死而無悔
 りのや此度暴徒と
 与一肥後植木
 所不於て
 衆小雁で先登は
 官軍の爲し銃丸を
 胸より脊へうけ打られ
 即死せしといふ



河野四郎

鹿見島小技で頗る強將の名あり
人とのり武畧も長す今回熊本
花岡山の麓小技で間諜と
以て官軍の透し間ひ

支那齋の田單の筭
策小ふいひ五頭の
牛は石腦油と
注ぎ火でうろ
之と追放ち大
官軍とるる
せりとを



有馬藤太

薩州の士人
私学校生徒の
一人さう性急な
刀鎗の術を克く
今回抜刀隊の長と
なり田原坂木留の
戦ひふまわく官軍と
かゝりませし御舟の
一戦は深手を負ひ遂に
陣没ありしと



別府新助

島津久光公の馬役りて
 大坪流の奥美口達一家中の
 師範たる驍勇三助を譲り
 以頗る勢力あり茲に兵
 忍耐の性有る故今般
 暴魁西々黨々
 肥後國吉次越官の
 大軍とあをむるに
 抜かると切入り



池辺士早郎

熊本縣の士はて幼より武術へ
 と好し且軍略は長ト一藩
 肩に比ぶるめりあはし
 當時政体みまなく
 封建の残夢不迷い
 縣下頑固の徒
 と首唱
 西々小
 加擔して
 大官軍
 に枕ト



▲日月あつて
 彈丸のこゝろに
 落命せしと
 云

逸見十郎太



人となり強勇は短慮あり
 慶応三年関東に在
 時深川柳川町中
 妾宅より其妻の
 不義と怒り殺害して
 金五十両とを妾が
 母小引りてとぞ
 さ々今回暴徒と与り
 出陣して官軍に抗し
 帰縣して軍勢と脅迫し
 甚と及んせりとぞ

山内半左エ門



島津公の近臣より文學
 ありといふ少も何れねど
 生質濃厚に徳行の
 君子ありしか所謂頑固
 の僻ありて封建の往昔
 とあつひ常小平平
 心とつら死にが遂り
 西心の誘導よ心醉
 一てその名と汚せり
 と我

四群書

淵辺高照

勇あつて智を以て乱を治す
 古人の金言あり高照は
 幼少より馬を
 好み常に馬上に
 跨ぐ一時間
 十四甲をもち
 のみ名譽のみまゝあり
 然れどもその智を以て故小
 大義のあり所を弁へて遂に
 暴徒の先陣となり要官軍に抗す



平山新助

武略あつて智術を以て
 薩人の多しを以て就中新公
 大膽不敵の豪傑あり



▲其れほどの大義の何れのたるを
 知れば暴徒を以て
 醜名を以て

永山矢一郎

鹿見島を馬術鎗刀の達人
 みて勇壯のきとあり且人とあ
 篤実みこと以て暴徒の
 旗頭を任せり
 四月十四日官の援兵
 熊水城と連絡の
 後まなく敗れり
 隆盛より委任の
 部を捨て自殺
 せり



中島武彦

古主久光公に仕へり
 郡奉行に内侍をい
 清廉はて百姓を
 恵み農商をの徳
 とまへり



山豆とろくろんや西の桐野
 一方の隊長と
 ちりて官軍お拵
 汚名と千載よ
 のこさん

池上四郎

鹿兒島縣の士族より維新の
後同縣の参吏をつとめしが
其任に堪ざるを以て
辭職す
今般首謀の
者其人と
きつと賞



▲副將と
あしひらき

明治十年八月九日御届

發兌明治十年九月

編輯者 西野古海

第四大區一小區錦町丁目十五番地

東京

農 木村文三郎

第一大區十二小區馬喰町二
丁目一番地

書林

羅縣管下

日多如

黃尾成